

《今朝の聖書から》四十日も、肉体的には究極の苦しみを味あわれたイエス様は、御霊すなわち神様の意思によって、試練をお受けになるのです。まず、旧約聖書の引用が出てきますので、そのことに心を留めましょう。旧約聖書をよく知っていた人々には、私たち以上にはるかに、“思い当たる”言葉だったでしょう。4節には、申命記の8：3 “それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに知らせるためであった。”が背後で説明されています。“あなたの神、主を恐れ、彼に仕え、彼に従い、その名をさして誓わなければならない。”というの申命記10：20ですが、ルカは8節、イエス様がこの言葉を語られたことを示しています。また10節の二重括弧のところは、詩篇91：11～12 “これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むすべての道で／あなたを守らせられるからである。彼らはその手で、あなたをささえ、石に足を打ちつけることのないようにする。”といとところを指しています。更に申命記6：16 “あなたがたがマッサでしたように、あなたがたの神、主を試みてはならない。”と、今度はイエス様の言葉として明らかにしています。苦しみの中でイエス様は人の人生についての神様の思いと、人々の罪について語られたのです。我々にはできないほどの厳しさを持ってイエス様は、人々を教えられましたが、それは、誰よりも優しいイエス様だからできたことを次に見て見ましょう。私たちを取り巻く誘惑に対して、神様から与えられたチャレンジに答えて、価値ある人生を送らなければならないのですが、主は“誘惑に負けてはならない”と語られるとき、厳しさを持って私たちを導かれますが、最後の最後には、至高の優しさを持って、私たちを救ってくださるのです。この優しさが主の厳しさなのです。“全てを主にあけわたす様に”と、レプタ二枚を大切にされ(ルカ21：2)、富める若者(ルカ10：22)を帰らせた厳しさこそ、優しさがあってこそその厳しさなのではないでしょうか。

# 週報

2007年 3月 4日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸